

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

（領域ごと）

- ①言葉の特徴や使い方に関する事項 良好な結果であった
- ②情報の扱い方に関する事項 良好な結果であった
- ③話すこと・聞くこと 良好な結果であった
- ④書くこと 概ね良好な結果であった
- ⑤読むこと 概ね良好な結果であった

（問題形式）

- ①選択式 良好な結果であった
- ②短答式 大変良好な結果であった
- ③記述式 概ね良好な結果であった

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

- ・もっとも正答率の高かった設問 1三(2)イ 送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく使う
- ・もっとも正答率の低かった設問 1二 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する
- ・もっとも無解答率の高かった設問 3三 日常よく使われる敬語を理解している

分析

1 傾向

全体的に解答率・正答率とも全国・大阪よりも高めの結果になった。問題形式は、短答式の問題の無解答率が低く、正答率も高かった。また、記述式で自分の考えが伝わるように書いたり、まとめたりする問題で正答率が低かった。

2 成果

自力解決の時間を保障し、問題に取り組んだことを認めていく指導の積み上げが成果として表れていると考えられる。また、家庭や地域の学習に対する前向きな姿勢や支えも結果につながったのではないかと考えられる。

3 課題

書くことへの苦手意識がある児童が多い。学校の取組みとして、物語の視写や話型などの文のモデルを参考に書くこと、自分の想いを文章にすること、感想文などを共有し認め合うこと、それを読んで互いに評価するなどの機会を多く持つことを継続して行っていく必要があると考える。

4 授業での重点的な取組み

東小学校での重点的な取組みが、書きまとめる力を育てることなので、作文やリーフレット作成など指導事項を明確にして言語活動を設定し、自分の考えをまとめる、文章を要約する活動を発達段階に合わせて全学年で実施していく。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ①数と計算 | 良好な結果であった |
| ②図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③変化と関係 | 良好な結果であった |
| ④データの活用 | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 1(1)変化と関係 2(2)図形
表から変化の特徴を読み取る、図形の性質を理解する
- ・もっとも正答率の低かった設問 2(4)図形
底辺と面積の関係性を言葉や数を用いて記述する
- ・もっとも無解答率の高かった設問など 4(3)データの活用
グラフを読み取り、見出した違いを言葉と数を用いて記述する

分析

1 傾向

全体的に解答率・正答率とも全国・大阪よりも高めの結果になった。図形について言葉や数を用いて記述する問題の正答率が低かった。また、問題形式としては短答式の正答率が高かったが、記述式の問題は課題が残る結果となった。

2 成果

児童アンケートの結果から、算数の勉強は大切と感じている児童が多いということがわかる。この結果が基礎的な学力の定着につながっているのではないかと考える。また普段の学習で、問題解決型の学習に取り組んできたことが汎用的に既習事項を活用し、解決方法を見出すことができ、正答率を上げる結果につながったと考える。

3 課題

記述で答える問題において、問題内容が複雑になると解答はしているが正答率は低い。問題から課題をくみ取って、必要な事柄を適切な言葉を使って説明することが苦手である。

4 授業での重点的な取り組み

一年生から系統立てて、問題解決や自力解決に取り組んでいく。「東小スタンダード算数版」でのノート指導も継続しておこなっていく。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

正答率は、国語科算数科とも概ね良好である。無解答率が低く、問題に対して前向きに取り組んでいる。日々の学習の中で、自ら学び、課題を解決していく力がついている。それが無解答率の低さにつながっている。選択や短答式の問題はよくできている。一方、文章で論理的に記述することが苦手である。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層はこの数年、全国平均を下回る傾向が続いていたが、今年度は全国平均を若干上回った。また学力低位層およびエンパワー層は全国平均を上回る傾向が続いていたが、今年度は学力低位層、エンパワー層ともに全国平均を大きく下回った。学力低位層が学力中位層へ推移していることが考えられる。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

基礎となる大きな柱

読み取り 書きまとめる力を 育てる

＜取り組みの4つの柱＞

共に学び、共に育つ集団作りを目指して、子ども主体の授業づくりを進める。

①『読書』 読み聞かせ 物語を楽しんで読む

週1回読書タイムを設定し、図書委員を中心に読書をする時間を設定したり、地域よりキッズサポーターに協力をしてもらい、読書タイムを使って絵本などの読み聞かせをしてもらったりしている。毎週の読書タイムを楽しみにしている児童は多い。各クラスに学級文庫を設置して興味や関心が広がるような働きかけをおこない、秋の読書週間には「おすすめの本」の紹介を全校児童で作成し、図書委員会によるスタンプラリーなどの読書への興味関心を高めるような働きかけをおこなっている。

②『交流』 ペア交流 グループ交流などを授業に取り入れる

授業の中で、ペア学習・少人数のグループ学習を活動に入れ、自分の考えを「相手に伝える力」、コミュニケーション能力を身につけることへのてだてを行っている。

読み取る力には個人差があるので、学習を進める際には工夫をしてペア学習や、少人数のグループ学習で交流し学習を進めている。

③『語彙力を高める』 辞書の活用 主語述語への線引き 5W1Hの読み取り

児童の語彙を増やすために国語辞典を活用し、視写の取り組みを行うなど児童の成長過程に合わせながら行っている。

④『要旨をまとめる』 授業の終わりに短くまとめる 場面ごとにまとめる

自分の考えや内容をまとめることを苦手としている児童もいるため、要約する練習や短文づくりにも取り組んでいる。

＜学校の取り組み＞

- ◎「問題解決学習」に取り組み、算数の学習を中心に問題解決学習を展開することで見通しを立て、自力解決をし、意見を発表し交流することで考えを広め、深めている。
- ◎「学習の場」を設定し、夏休み学習会や放課後寺子屋学習など少人数での学習により苦手意識をなくすことを重視してきた。授業でのスクールサポーターの活用も個に応じた指導に役立っている。
- ◎「東小スタンダード」を算数・国語で作成し一貫した指導ができるように努めている。東小スタンダードは授業の流れやノートづくりに対応できるようにしている。
- ◎「家庭学習週間」を設定し、宿題のチェックや自主学習の習慣化をめあてに家庭と学校で連携をはかっている。「家庭学習のてびき」をそれぞれの学年に合わせて配付し自主学習の用例（漢字練習や計算の反復練習、意味調べ、調べ学習、読書など）を提示することで、学年に応じて宿題だけでなく自主的に学ぶ「自主学習」も行っていけるように働きかけている。